

底魚漁場調査

(東シナ海大陸斜面域の海底地形調査)

山本隆司、嘉数 清、川崎一男

喜屋武俊彦、海老沢明彦

1. 目的および内容

マチ類の漁獲量を増大させるためには、新規漁場の開発を行う必要があり、そのための海底地形調査を実施した。調査海域は、県内船がほとんど利用していない東シナ海大陸斜面域で、漁業調査試験船「凶南丸」216.09トンにより調査した。本調査の結果を「漁業用海底地形図」としてまとめ、漁業者へ配布する予定である。

2. 方法

調査海域は、図1に示した東シナ海の大陸斜面域で、大陸棚の端から斜面の水深1,000 mまでとした。ロランA受信機と航跡記録機を使用して連続測位し、調査測線が1 浬間隔になるように船を航走させた。使用した魚群探知機は、日本無線 NJA - 820-B (5.0 kHz 乾式記録紙使用)である。

3. 結果

(1) 第1次航海

調査期間……昭和56年6月16日～19日

調査員……嘉数 清・山本隆司

調査海域……航跡図を図2に示した。

(2) 第2次航海

調査期間……昭和56年9月10日～17日

調査員……喜屋武俊彦

調査海域……航跡図を図3に示した。

(3) 第3次航海

調査期間……昭和56年12月16日～24日

調査員……山本隆司

調査海域……航跡図を図4に示した。

(4) 第4次航海

調査期間……昭和57年1月11日～20日

調査員……川崎一男

調査海域……航海図を図5に示した。

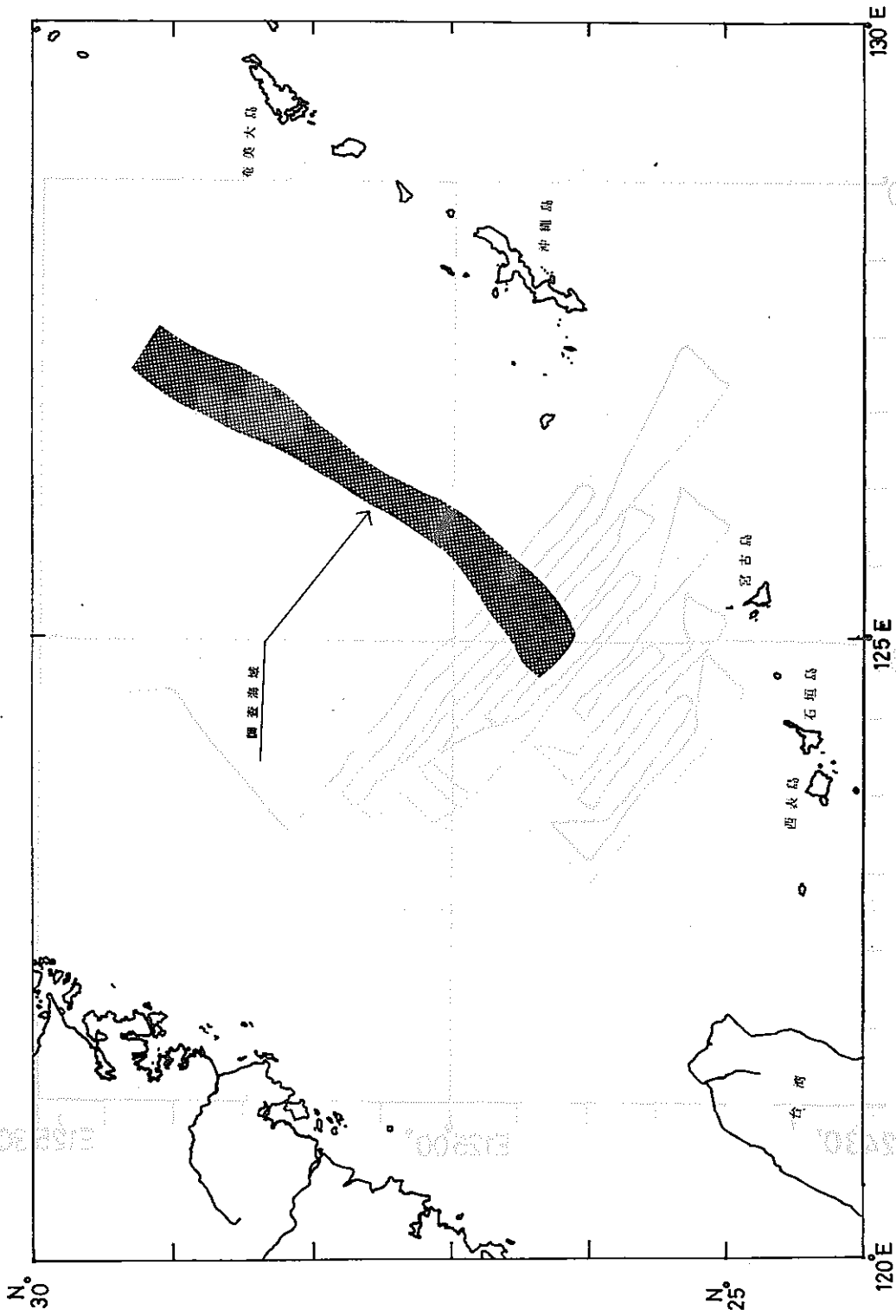
(5) 第5次航海

調査期間……昭和57年2月16日

～25日

調査員……海老沢明彦

調査海域……航跡図を図6に示した。



圖一 調查海域圖

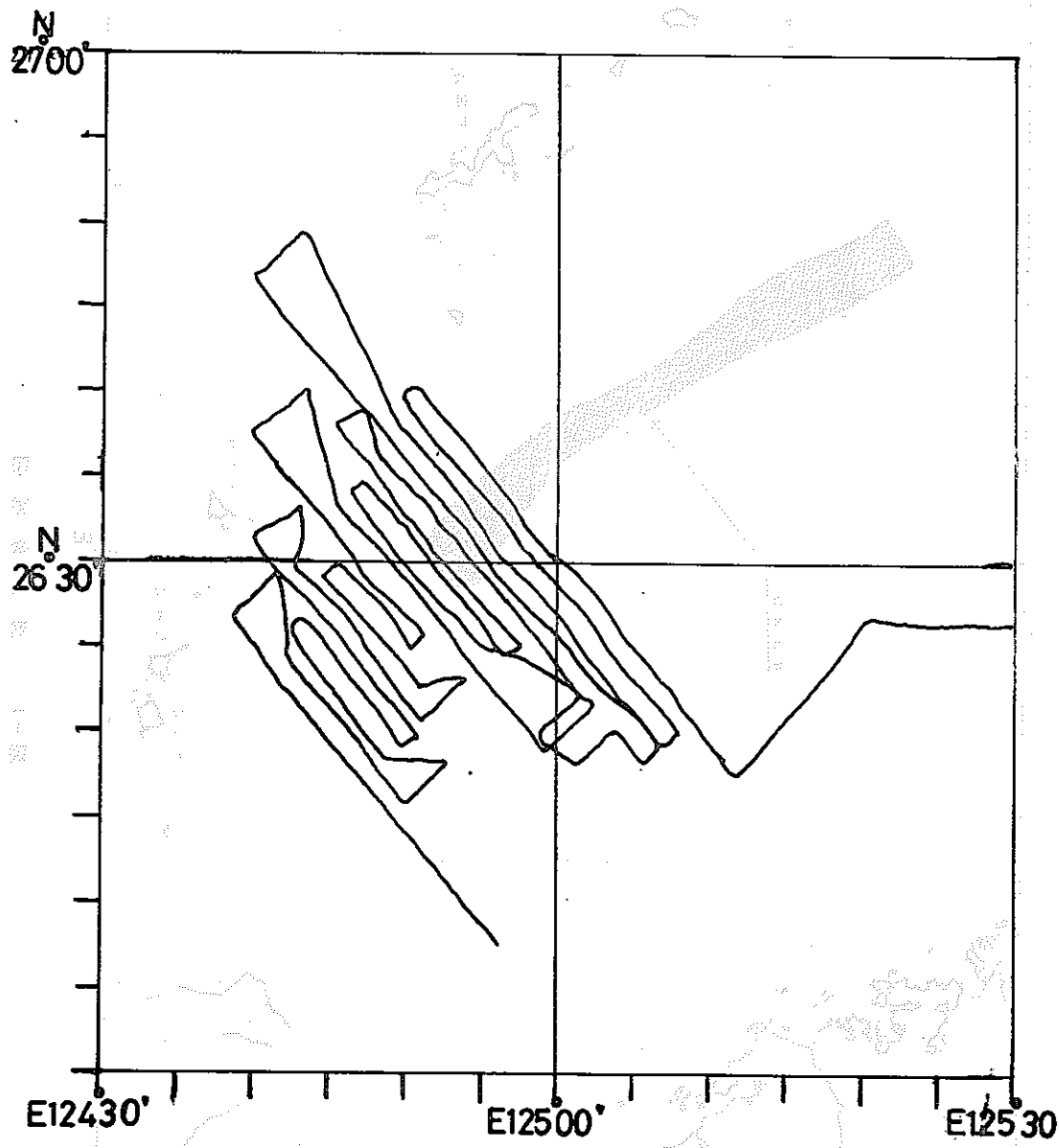


图 - 2 一次航海航迹图

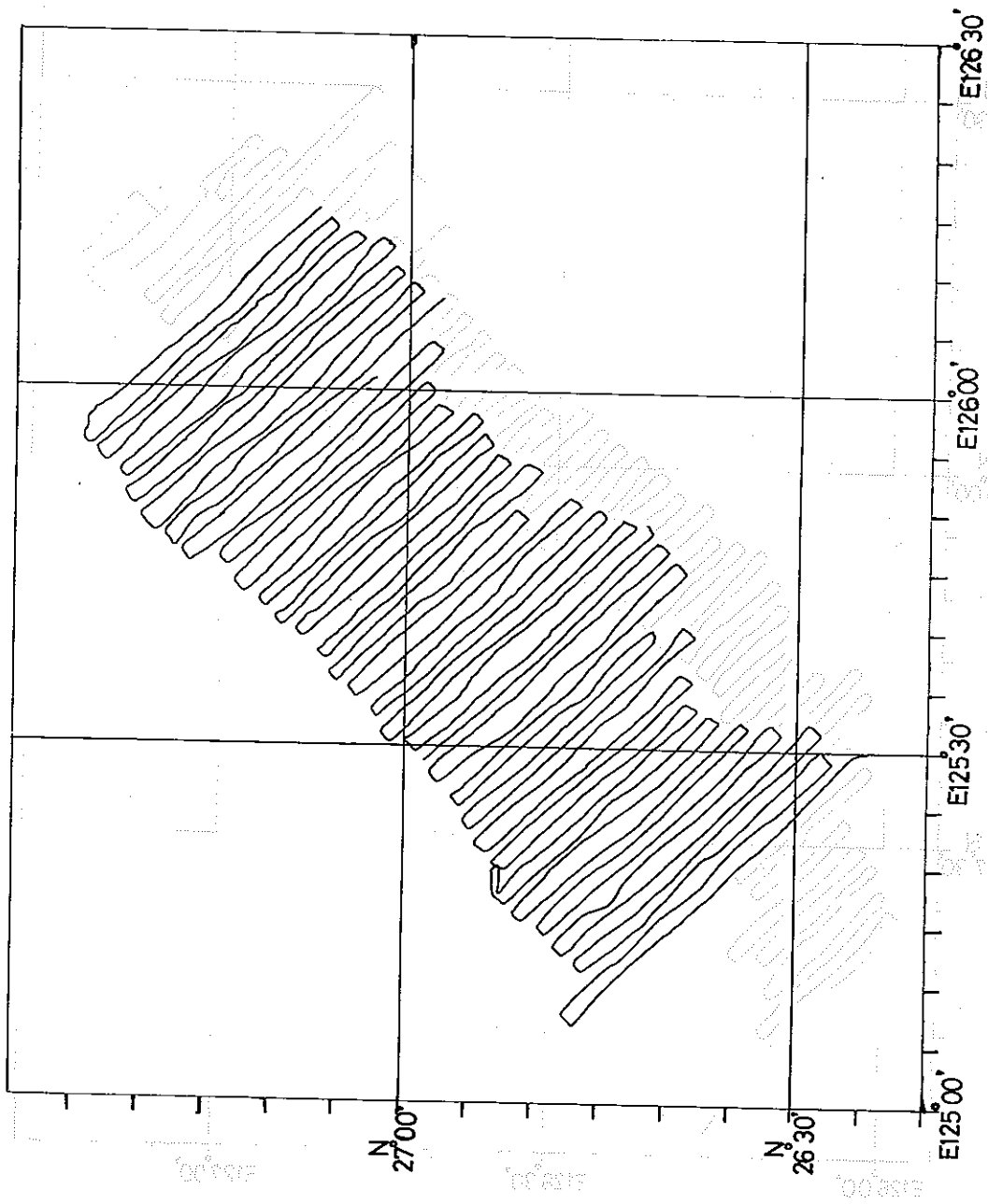


图 - 3 2 次航海航跡图

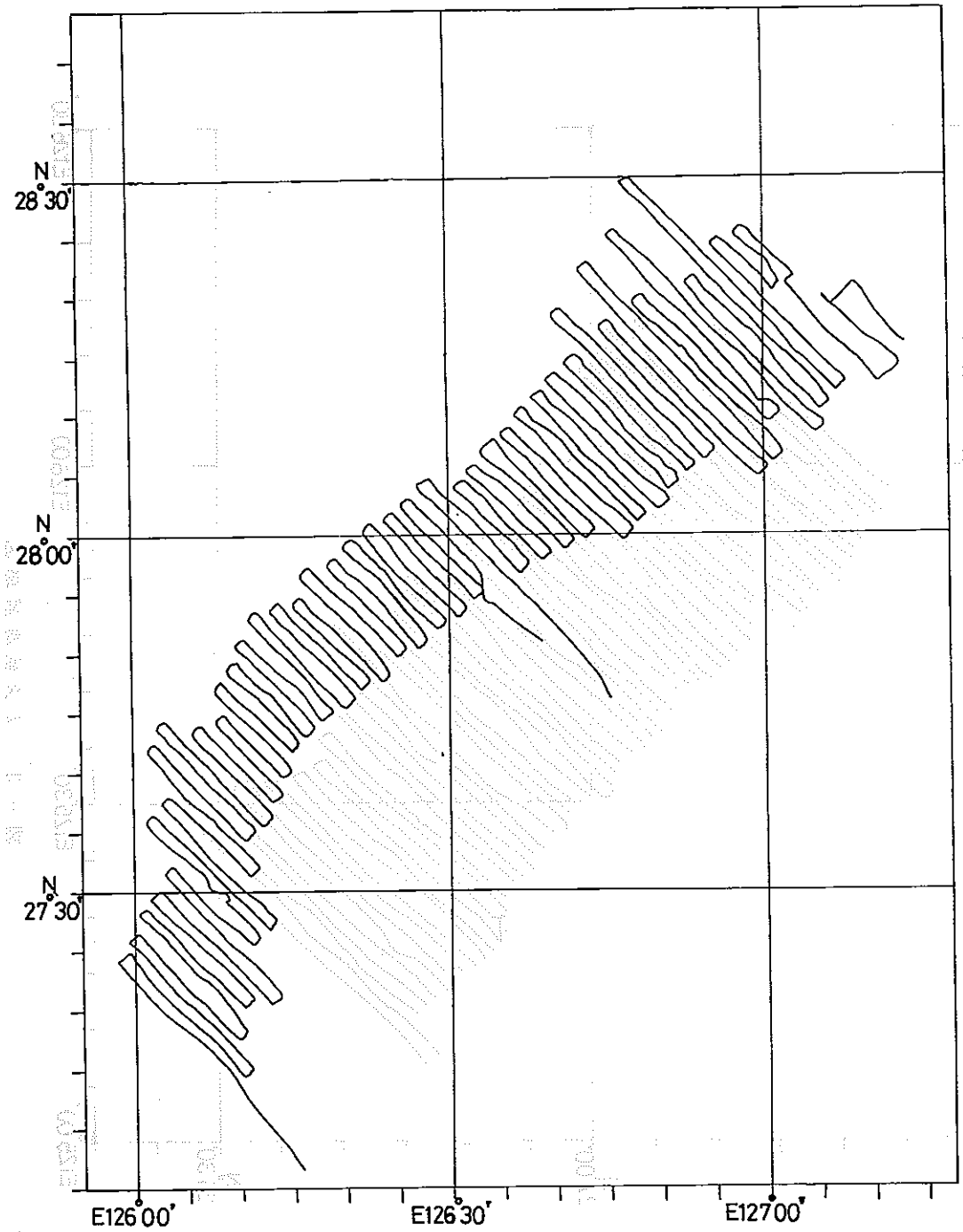


图 - 4 第 3 次航海航跡图

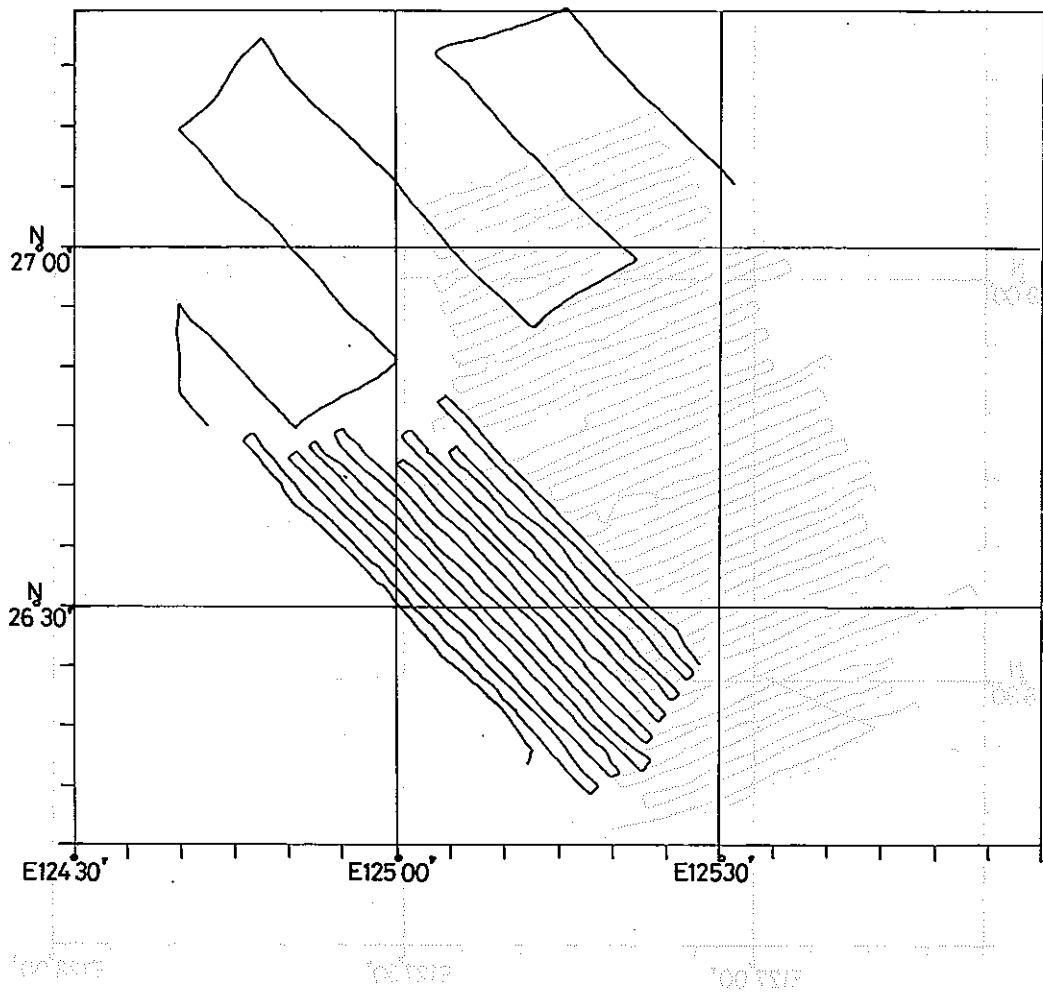


图 - 5 第 4 次航海航迹图

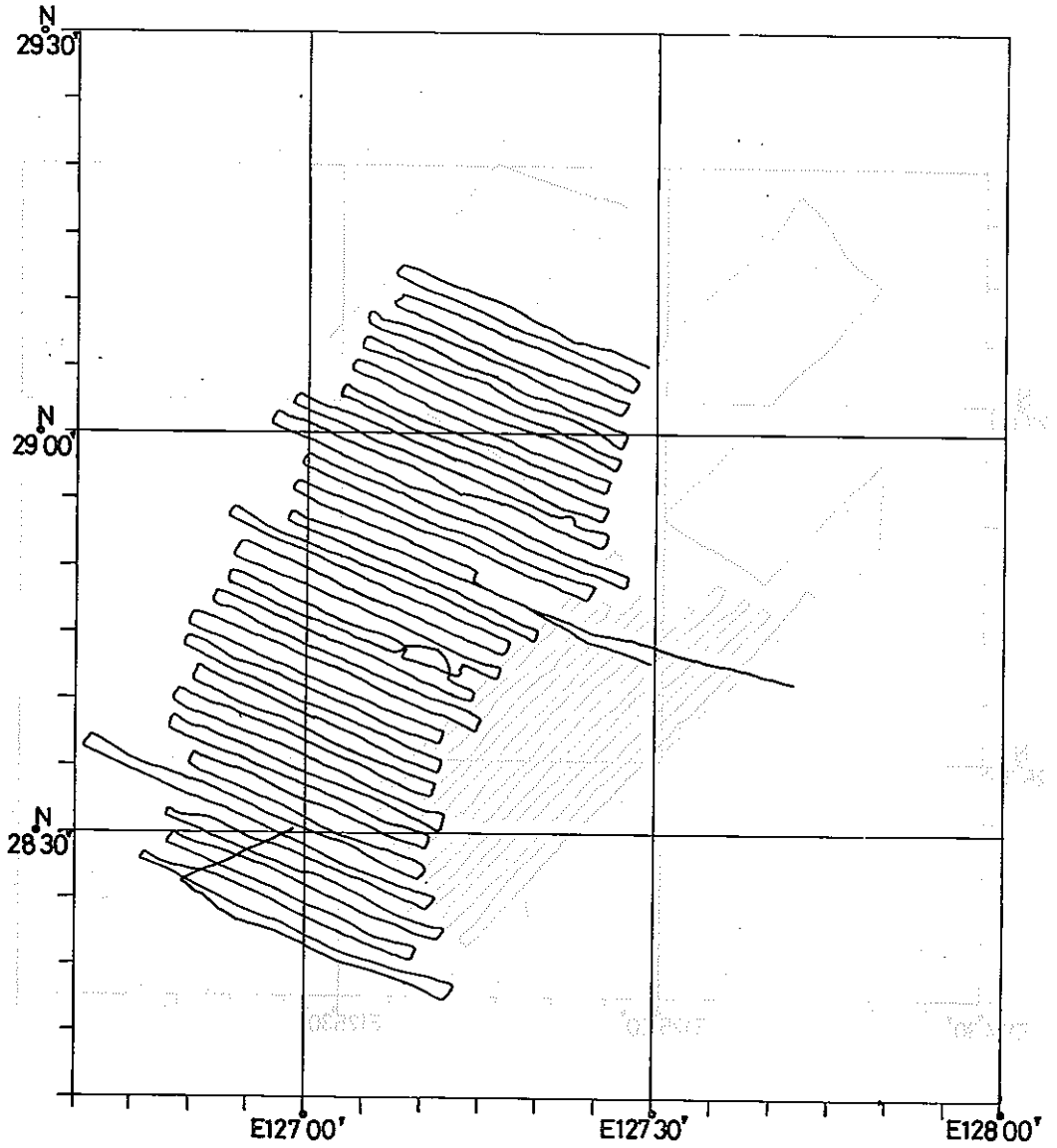


图-6 第5次航海航跡图